



熊本支部報

(社) 日本山岳会熊本支部

No. 31 平成26年3月31日
 発行 (社) 日本山岳会熊本支部
 熊本県合志市豊岡 2000-810
 松本莞爾方
 電話 096-248-4485
 発行者 工藤 文昭
 印刷 ベストプロセス

目次

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 平成25年度熊本支部活動を振り返って・工藤 文昭 | 6. 宮崎支部との交流会……………安場 俊郎 |
| 2. 北田正三氏の遺稿が見つかる……………本田 誠也 | 7. 干支の山「馬見山」登山報告……………安場 俊郎 |
| 3. 随想 「山への憧れ」……………門脇 愛子 | 8. 国土地理院の標高が変わります……………事務局 |
| 4. 私と山登り……………植木 啓子 | 9. 山岳会からのお知らせ……………事務局 |
| 5. 事業報告「第12回登山研修」……………石井 文雄 | 10. 年間事業案内……………事務局 |

平成25年度熊本支部活動を振り返って

熊本支部長 工藤 文昭

平成25年度も、熊本支部会員の皆様の多大なご協力で大きな成果を残して終えることが出来たようです。特に、今年度から取り組んだ「森づくり」では、これまで度々山に入りながら気付かなかった自然の摂理が理解でき、自然に係りながら自然を守る心も芽生えてきました。熊本支部の1年の活動を簡単に纏めてみました。

まず、会議関係についてですが、4月21日(日)、熊本交通センターホテルで25年度総会を開催しました。年度初めの支部会員・会友は78名、総会出席者は58名(内委任状28名)でした。24年度の事業報告・会計報告と、その成果を踏まえた25年度の事業計画(案)が示され承認されました。日本山岳会が公益社団法人に認定されて2年が経過しましたが、どの支部も公益事業の実施率は上昇しております。熊本支部も、支部役員の活動を除いた全支部員で取り組んだ事業の7割は公益事業ということになります。日頃から支部の皆様のご協力に感謝します。一部紛糾した場面もありましたが、新年度へのスタートができました。

・支部役員会は毎月実施し、実施した事業の反省と、その後の事業の計画案について審議して実施に備えました。年間事業実施の標準化のために、

「支部事業実施マニュアル」を作成し、支部活動の目標達成を目指しましたが、以前より成果は上がりつつあるようです。

② 山行

・登山教室・山野草観察会・5月杵島岳、往生岳のイワカガミ鑑賞登山。6月は霧島韓国岳から大浪池を越えた縦走登山も一般参加者が多く、コースの選択がよく、後半は雨にも叩かれましたが、とてもよい登山が出来ました。9月には、3回目の南外輪山の登山、天気にも恵まれ、マツムシソウの鮮やかな群落、その他の高山植物も多く、地蔵峠から俵山峠までのロングトレールを楽しみました。今後、この企画が阿蘇外輪山一周に繋がればとも考えています。その時の達成感、満足感を思うと是非やり遂げたい事業ですね。



・登山研修会は2回行いました。8月、菊池水源流域の沢登りは3回目になりますが、一番暑い時期に清流の遡行は最高に気持ち良い登山です。この楽しい山行をもっと多くの人に楽しんでもらいたく、会員の皆様にお勧めしたいです。2月には、雪山研修で九重山に登りました。昨年も2月初めでありながら、ポカポカ陽気の春山でしたが、今年も全く同じでした。今年例年になく寒さが厳しく、阿蘇、九重ともに、多いときは4・50cmの積雪があったのに、この時だけは寒波も緩み、雪も少なかったですが、コース選定もよく、良い体験もできたと思います。今年初めて熊本県高体連登山部の参加もありました。3月には、恒例の干支の山で福岡県の馬見山に出かけました。一般参加も含めて30名位の参加がありました。

③ 地域振興・貢献活動事業

・7月には、第2回勤労青少年登山教室を小岱山で行い、23名が参加しました。これは熊本市勤労青少年ホームとの共催で、事前に座学4時間を行い、翌週に実技登山をやりました。昨年と比べて参加者が減少していましたが、広報、募集活動を改善すれば、参加者も増加すると思います。参加者には満足いただける事業でした。

・昨年度から始めた「知的障害者支援登山教室」は、われわれ支部員の方が感動し、学ぶことが多かった事業です。今年南外輪山の地蔵峠～大矢岳で実施の予定でしたが、生憎の大雨になり延期したものの、共催するSO（スペシャルオリンピック）熊本の都合がつかず、来年度に持ち越しとなりました。26年度のSO熊本の計画表にも入っていますので、再度、参加者の感動の笑顔が是非見たいものです。

・森林保全巡視活動は、森林管理局からの委託を受けた森林保全巡視登山ですが、4月と11月の2回、高岳で行いました。5月下旬頃に咲き始めるミヤマキリシマの花が、虫害やヤシャブシの影響を受けて少なくなり、その調査をしています。樹勢回復のための試みも行っておりますので、2、3年内には大方の結果も出るでしょう。月見小屋前の貴重な水場の清掃も行って、十分利用で

きるようになりました。

・森づくり活動・森づくりと言っても、どうやるのか、資金も用具も、ノウハウもない支部でしたが、熊本市役所水保全課が、森づくりボランティアの養成講座を開講されており、それに100%お世話になりながら森づくりの体験学習を進めております。今年は4回ありましたが、下草刈り、枝打ち、間伐、補植について勉強しました。作業は結構ハードで、森づくりの大変さがわかりました。下草刈りをやらないと植栽した苗は育たないし、4回目の講座で体験した補植では、植栽して4年になるのにまだほとんど生育していないし、枯れているのが30%前後はありました。今まで私たちは森を利用するだけでしたが森は多くの年月と人の手を借りてしか育たないこともわかりました。この講座は年4回、3年間の過程を終了すると卒業ということになりますが、いつからでも参加できますので、多くの会員の方に参加していただきたいと思います。そのことで、自然の奥深い素晴らしさも理解でき、登山の感動も倍増すると思います。

④ 会報・支部通信



当初年4回発行を目指していましたが、今年度も3回発行になりそうです。原稿の集まりが悪く、相当苦勞して3回発行にこぎ付けているのが現状です。大きな遠征や特別の体験記録だけを求めているわけではありません。ごく身近な登山、体験、話題で結構です。人それぞれに見方、考え方は違います。自分ではなんでもない文章と思われても、他人には、それが魅力的で、刺激的な文に思われ

る事も多いです。そのよう原稿を気軽にご投稿ください。支部通信は支部活動の連絡用に発行しております。これには支部の全ての活動情報を網羅しております。内容をご覧いただき、支部活動にご協力をお願いします。

⑤ 他支部との交流

・9月末には九州5支部集会在福岡支部の担当で大宰府で行われ、70名近い参加者が集いました。「九州は一つ」のスローガンのもと、交流会も盛り上がりました。2日目は宝満山・古代史に飾られた四王寺山を登りました。熊本からも8名が出席しました。

・第7回熊本・宮崎支部交流登山 2月15～16日天草次郎丸岳、天草観海アルプス龍ヶ岳～念珠岳で行い、熊本支部15名、宮崎支部18名が参加しました。好天にも恵まれ真冬というのに、緑豊かな照葉樹林の森から海の眺めながらの登山に感動しました。宮崎支部と高千穂町主催のウェストン祭にも11名が参加しました。翌日は五ヶ所近くの赤川浦岳に登りました。



⑥ その他の行事

・山の写真展（12月7日～21日）

恒例の山の写真展は2週間、山の店「シェルパ」で行いました。今回は出品者が多く、立派な写真が並びました。特に馬場会員のエヴェレスト遠征の貴重な写真も展示されました。

・海外登山報告会 安場会員のモンブラン一周の山旅は、普通あまり見ることのない角度からの山姿が多く、本場アルプスの可憐な花も見事で、旅心を誘われました。

・夏のビールパーティー（参加26名）・新年晩餐会（参加28名）・・・同じ会に在籍しながら、中々お互いに胸襟を開いて話す機会も少ないのですが、良い交流の場になりました。

・日本山岳会の「日本300名山」の改定作業熊本支部は阿蘇山（中林会員）、国見岳（廣永会員）、市房山（田北会員）の3山を担当しました。何度も取材のため現地を訪ねての原稿作成、ご苦労様でした。今年5月頃には発刊の予定です。また、日本山岳会が薦める「親子登山」の山として、熊本支部では「鞍岳」を選び、工藤が担当しました。すでに本会のHPに発表されています。

以上が平成25年度の活動報告です。昨年12月の全国支部長会で、ある支部から次のような発言がありました。「全国32支部の規模にも格差があり、活動できること、できないこともあります。各支部の活動を同一に評価しないでほしい。大きな支部では人材も豊富で、簡単にできることが、小さい支部では取り組む事業に限界があるます。」ということでした。熊本支部は、全国32支部の中でも下から2、3番目に小さな支部ということになります。それでも今年度は年間16回の公益事業をやりとげ、登山の素晴らしさ、安全登山の啓蒙を広げることが出来たと思います。支部が持っている力以上の活動だったと思います。これも偏に支部会員の皆様のご参加、ご協力によるものです。

今後とも、支部事業にご協力いただき、更なるクラブライフの楽しみを享受したいものです。新年度もよろしくをお願いします。



初代熊本支部長北田正三さんの遺稿！

この度、本田誠也顧問から、誠に貴重な原稿をお預かりしました。日本山岳会熊本支部の創設者であり、初代支部長だった北田正三さんの遺稿です。当時北田さんは、熊本県山岳連盟会長でありましたが、九州に未だ日本山岳会の支部がない頃で、熊本に日本山岳会の支部を立ち上げようと、昭和32年（1957年）7月13日に13名の発起人の内、9名が阿蘇郡一の宮町宮地の北田さんの自宅（聖山荘）に集まり支部設立に関する会議を持った。この日が熊本支部設立の日とされています。この10日前の7月3日は九州初の福岡支部が設立され、熊本は全国12番目の支部設立となりました。現支部員としてご健在の菅隆雄さんは、この設立メンバーの唯一の会員です。

北田正三氏は、昭和33年7月27日、阿蘇高岳、鷲ヶ峰東稜より墜死されました。享年65歳。この遺稿は昭和34年4月刊行の熊本岳連「年報1955~1956」の巻頭言として掲載されました。明治生まれの北田さんの文章は難解ですが、原文のまま掲載しました。（工藤文昭）

山への「ねぎごと」（遺稿）

熊本県山岳連盟会長 北田正三

心のふるさと、に帰りたい、とねがふは今も昔もかわりなく、夢や、まぼろし、でもなく、人々の望ましいねぎごとである。

その一つに多くの人々は、をほどこな山、に入っ
て大自然の懐に心のふるさと、を見出してゐる。
昔しは修験、今は岳人。

しかし、只に孤立獨居の閑境をむさぼるわけではなくて自己と大自然との調和に、登行のリズム、に喜びを致し、又それを味わって人の世の、うれしい、かなしみ、わびしさ、つれなさ、きびしさ、かくて、うれしさがこみ上げて来る感激の一コマもある。

山、と云ふ字型は、横一の上に三本の線が立って
ゐる造形からして、安定があり、和を表はし、又、
ザイルパーテーの根本をも意味してゐると、こじ

つけ、ても、うれしさの極みではないか。

山の自然は無限の沈黙で人を迎えてくれる。山行く者としては常に之に感謝し、和ぎ、そして少しばかりの恐怖とを持つことを忘れてはならない。かくして楽しさが醸し出され、理窟なしに登行が出来、リズムに乗って歌が、詩が、書が人それぞれの心の中に湧きあがる。しかし、人の世の営みや、作品は何時も山の大自然美には壓倒され勝ちであるのは眞実である。

汝が立てる嶺は神の至聖所なる、と呼びて詩を裂きし古人、吾が筆、これをものし得ず、と画筆を投じた画聖。山のをほどこさ、人はそこに、心のふるさとにふさわしい、場、を見出している。ハイキング、フォーゲル、山旅、登行、クライム、とツアーからスポーツアルピニズムまで、かくてついに探検といふステップまでに踏み入ってゐることを考えてほしい。

山に いどむのでなく、山に抱かれる。まだ見ぬ世界へ、との心構えが望ましい。と敢えて一言もの申す。

四季を通じて、山は招く。山の祭典、山開き、樹氷の山へ、白銀乱舞、などと商品化のポスターに巻き込まれて、海水浴場よりも大賑いの山と観光地へ行く大衆は、他のスポーツと山行とのけじめをつけてゐない為に、只遭難と云う、山の要求する犠牲を知らな過ぎる。そして尊い生命を今年に入って三十幾人も失って帰らぬ山旅をしている。ベテランなるが故にとも云へない立大、甲南大其他もろもろの年期を入れた岳人も遭難してゐる事実を何と見るか。そこに、岳人と岳界の協和と団結が生じ来る。自己と隣人との結びつき、一つの會と他の一つの會との協力、かくてその結合は強く楽しいものと成長する。山を愛し、山に登るものは自己を顧み隣人と和し、山を知る認識と研究と鍛錬を怠らず明日の山の生活を立派に営める岳人にと願い申すべきものなり。あなかしこ。

頓首

昭和32・6・27

阿蘇聖山荘 北田正三

随 想

山への憧れ

8605 門脇 愛子

「世の中には本当の無駄とそうでない無駄がある。例えば子供の生活にも多いし、山登りなどもそうだ。世の中に寝るほど楽はなきものを、浮世の馬鹿は起きて働くなどとも言うが、まことに働いたらまだ金儲けができるが、山登りなどこの寒いのにわざわざ好んで重い荷物を背負い、歩いて高い所に登っていく。なんとご苦労なことだろう。

“何故山に登るのか？”“そこに山があるからだ”云うが・・・だがこの無駄が人生の潤滑油になっている事を信じる。必要な無駄だ。元旦の朝久住の山々を望みながら、久住高原を歩きつつ考えた年頭所感である。

山登りの良いことは、すべての雑念から解放されるという事、その一步一步が大切であり、その一步一步にすべてがかかる場合がある。他の事は考えられない、そして自然の美しき、雄大さに触れること、又山の表情は美しい。

“山のあなたの空遠く、幸い人の住むという”大いに山の登ろう！山へ！山へ！”これは昭和35年の年頭所感です。ある必要があつて古い日記を捲っていたら53年前、最も山に熱を上げていた頃の気持ちを思い出しました。

昭和43年に富士登山をしたのをきっかけにアルコウ会に入会し、35年初の久住冬山登山や7月のツベツキ谷での岩登り訓練、10月の国体登山の応援等、そしてアルコウ会の例会山行皆勤、(その後皆勤を続けて25年、昭和59年8月に300回を達成した)と山登り人生、仕事も健康も山登りの為、山は恋人といった時代の始まりでした。

その後日本山岳会にも入会し、山登りを謳歌する時代が続きましたが、今はもう全て思い出の彼方です。テレビの山番組を見ながら写真や日記を通して、あの山、この山、楽しかったこと、困難だったこと、あの人にこの人山仲間の思い出に浸るだけのこの頃になりました。でも山はいい。初心を忘れずに、山への憧れは持ち続けたいと思います。

山登りと私

熊本支部会友 植木 啓子

子育ての手が離れると、子供たちと足しげく通っていた天草の海から、煙吐く阿蘇の山々の大自然の中へと、気持が自然に転じていきました。阿蘇の大草原を散策し、中岳・高岳に登り、九重の大船山や坊がつるにも行ってみたいという希望はありましたが、大観峰や牧の戸に行くときは、ドライブするだけで十分に運動になり、実際に登山するなどということは、帰り道での長距離運転と渋滞を思うとき、事故にもつながりかねないこととして、避けなくてはならないことの一つでした。

ところが、主人の定年の1年前の春の朝、主人が「これはいい！これに参加してみないか？」と言って、新聞を差し出しました。見ると、そのコラムには、『バスハイクで九重の獵師岳に行って登山教室をします』という日本山岳会熊本支部の一般社会人向けの参加者募集広告が載っていました。この登山教室への参加が、わたしと主人の新しい楽しみの始まりとなりました。登山のあとは、リーダーのお世話で温泉に入って汗を流し、熊本に帰り着くまで、バスの中で快い眠りに誘われて、すっかり眠ってしまっていました。

あれから県北の山、県南の五木・五家荘の山、天草の観海アルプス、九重・阿蘇の山々と、いくつもの山に連れて行ってもらいましたが、どれもこれも印象的な楽しい山登りでした。最初の頃は一日に山を5～6時間も歩くということは絶望的なほどの忍苦を要しましたが、あれから4年経った今では、「当たり前」のこととなり、「楽しみ」になっています。「慣れ」とは恐ろしいものです。以前の私は100m離れたところに行くにも、「クルマで行こう」と言って主人を嘆かせていたものでした。

九重の涌蓋山(わいたさん)の山登りは、特に印象的でした。わたしたち、山岳会の一行は、放牧中の牛たちが三々五々と散らばって草を食べているのを横目に見ながら牧場を横切って行きましたが、途中で雨が降り出しました。主人が雨具を

事業報告

第10回登山研修会（雪山歩き）報告書

担当 石井文雄

着ようとしていると、大きな赤牛がやって来て、主人のズボンのポケットに鼻をこすりつけて離れようとしませんでした。主人が着替えにくそうにしているのを見て、リーダーの一人が牛を連れて行って下さいましたが、主人がそのズボンのポケットに手を入れると、出てきたのは携行食の森永キャラメルでした。「あの牛は子牛の頃、牛舎で飼われていたときに子供から森永キャラメルをもらったのかもしれない。放牧されている今、それを思い出して、(主人の) ポケットに鼻を摺り寄せて離れなかったのだろう」と、主人と勝手に想像しました。しばらく進んで八合目あたりの急な斜面を登っていると、風向きが変わり、ガスが出てきて強風の中で雨混じりに雹が降りました。滑らないように注意しながら小刻みに歩いて頂上に到達したときは、歓極まりました。下山して入った温泉の気持ちの良かったこと！その温泉宿の窓の外に見事な鳥が飛んできて、それがカケスという鳥だということを、リーダーの一人から教わりました。カケスはすてきな声で鳴くきれいな鳥でした。カラスとは別物だなんて、予想もしないことでした。山登りのベテランたちに連れて行ってもらって、初めてわかったことでした。

わたしはその頃、年齢のせいかわけがら高くなり、高血圧症になっておりました。最近では食事療法や有酸素運動に気をつけていて、次第に快方に向かっていますが、登山のあとは必ず血圧が下がります。それも驚くほどの効果があり、血圧が正常値に戻って、体調がとても良くなります。

山登りはわたしたちの健康のために、今では大切な欠かせないものになっています。さらにまた、山岳会の人たちと一緒にだと、楽しくもあり、また安心です。主人と共に、健康の続くかぎり、これからもずっと参加したいと思っています。



会員(会友)の安全登山及び登山技術向上の為、下記により雪山歩きを実施の予定が、ほとんど雪無しにて昨年の杵島岳、往生岳、に続いての実施となりました。昨年12月20日頃の雪が1月10日頃までは、黒土の見えない久住山であつたと思われましたが、(3回の下見にて) あいにくの暖かいお天気続で、3月～4月上旬の気温での山行になってしまいました。

幸い、雨50%の天気予報も、段々雲が上がり、帰りの非難小屋からは風も止み暖かく汗かく気候でした。最初44名の予定から、37名の山行となりました。登山口に近づくにつれて雨の心配もなくなり、大曲の残雪の上にて下車、高校生等グループ1班、一搬人4班、スロー班1班、に分かれて、出発、昨夜の雨と、雪解の、歩行となった

黒土の登山道を登り、林道へ、広場にて服装を整え、足首、肩慣らしの後再出発、雪は吹き溜まり、日陰の踏後に、残雪有りの状態、足元は悪かったが、天気はまあまあにて、遠くの山もかすんで見渡せる程、昼食の場所は、久住別れの下と同じ所にて済ませ、高校生等グループは久住別れより、御池経由中岳へ後久住山へ、一般は予定のコース、スロー班は、久住別れより西千里へのコースへ、雪山の厳しさ、美しさは体験出来なかつたが、無難に体力に応じたコースで歩いて、牧ノ戸への到着は少し早めの同時到着で満足されたことと思います。ご苦労様でした



(1) 実施期日 平成26年2月2日 (日)

①崇城大学市民ホール前 AM7:30

②大津公民館東駐車場 AM8:00

(2) 登山対象 久住山 1,787m

(3) コースタイム 市民ホール(7:30)～大津公民館駐車場(8:00)～立野(ヒライ)

(8:30)～三愛レストハウス(トイレ)(9:30)～大曲(10:15)～沢～林道～すがもり越(11:16～22)～北千里ヶ浜、上部昼食(11:50～12:23)～久住別れ(12:50)～久住山(13:30～43)～非難小屋(14:20)～西千里ヶ浜～牧ノ戸峠駐車場(16:25)～三愛レストハウス(トイレ)(16:45)～大津駐車場(18:10)～崇城大学市民ホール前(18:45)

(3) 研修内容 雪山の歩き方、冬の天候、ルートの取り方等、

(4) 装 備

A 携行品軽アイゼン、革登山靴、雨具、(上下)、スパッツ、ストック、防寒帽、ウール(手袋、靴下)コンパス、ヘッドランプ等(登山靴、雨具、スパッツは手入れして、防水を利かして下さい)。

B 服装冬山用の(長袖シャツ、長ズボン)防寒服・綿製品は避けて下さい。

(5) 参加者 CL 石井文雄

1班 CL 田北芳博 SL 千々岩泰子
宇都宮信夫 芥川文郎 坂西直明 松島義幸

2班 CL 安場俊郎 SL 山本直
渡辺暁美 原田栄作 三宅厚雄 原田久子

3班 CL 中林暉幸 SL 橋本悦子
野田一郎 江島博之 内布陽子 内布佳代子

4班 CL 加藤明 SL 金山春男
桑原リカ 松本大智 田尻正典 松本博美

5班 CL 池田清志 SL 濱近大輔
中村真彰 村野峻平 上野樹生 垣野俊太郎
岡千晶 甲斐千裕

救護班 CL 工藤文昭 SL 松本莞爾

第7回宮崎支部との交流会報告

担当 安場 俊郎

2月15日(土) 午前9時熊本市市民会館に熊本支部の参加者が集合し、ホテルの迎いのマイクロバスに乘車、途中乗車の2名をひらって宮崎支部との合流地「天草・松島町今泉」に向かう。

11時25分に集合地の今泉に到着したが、宮崎支部は既に昼食を済ませ熊本支部を待っておられた。現地集合の4名が到着すると挨拶を兼ねた開会式を実施、両支部長の挨拶の後、日程の説明やコースの説明をし、11時55分本日の登山行程、次郎丸への登山を開始した。

次郎丸へは今泉の集落を抜け、菩薩堂のある尾根に取り付き、そのおねをひたすら登る。頂上近くの大岩をロープを使ってよじ登り山頂へ、記念写真を撮って登り口とは反対の後山集落へ下る。ここでホテルのマイクロに乗り、本日の宿泊地「きらら停」へ。入浴の後6時30分から、恒例の懇親会が始まり、両支部長の挨拶のあとは、歌あり踊りありの楽しい2時間を過ごした。

2月16日(日) 遠くから来られた宮崎支部の皆様



太郎丸山頂にて宮崎・熊本支部員

さんの早めの帰宅を考慮して、5時起床、6時朝食、7時出発とした。昼食の弁当を受け取りねマイクロバスに乘車、龍ヶ岳山頂まで楽ちんな移動をする。山頂は天文台があり、展望も良く、八代海や御所浦島が望め、山の頂から海の島々の遠望を満喫する。今回はこの山頂を起点として観海アルプスの一端を縦走する。8時、キャンプ場のサイトを抜け、大作林道に出て縦走の開始である。登山路はよく整備され、非常に歩き易い。多少の

アップダウンはあるものの約3時間でふたたび八代海が望める尾根に上がり、和気あいあいと登山を楽しむが、目的地の念珠岳はなかなか近づかない。八代海から不知火海へと内海は変わり、眺望も素晴らしいものが見られた。11時ごろ左へ大きく迂回し尾根を回り込んだところで念珠岳への急坂に取り付き、約20分ほどで山頂に着く。正午のサイレンが麓から聞こえてきてちょうど昼食の時間となり、海が見える山頂での昼食となった。記念写真の撮りあいで、山頂のひと時を過ごし、12時30分には下山を開始。急坂のくぐりで苦勞はしたものの全員地蔵峠へ。そこからはよく整備された登山路を約1時間下り、二間戸から登って来た林道へと降りる、そこには約束通りホテルのバスが迎えてくれ、みんなそのバスに乗車する。この後各支部は各々帰路につくため、ここで閉会式をおこなった。

帰路登山の汗を流すため、スタバラソという温泉につかり疲れを癒した。

参加者

【熊本支部】 工藤文昭・松本莞爾・鶴田佐知子・石井文雄・安場俊郎・中林暉幸・田中朝子・橋本悦子・坂西直明・山本直・金山春男・中田良友・三宅厚雄・悦裕美乃・田北芳博・宇都宮信夫（16名）

【宮崎支部】 末永軍朗・水永一芳・前原満之・荒武入起・乾正太郎・櫻木勉・谷口菊美・谷口敏子・十川むつ子・多田周廣・丸田和宏・恒吉詔子・服部岩男・服部澄子・畑島良一・恒吉克範・黒岩たか子・多田登美子（18名）



念珠山頂にて熊本支部員

平成26年干支の山「馬見山」登山報告

担当 安場 俊郎

馬見山は福岡県嘉麻市と朝倉市の境界にある一等三角点のやまで九州百名山の山でもある、九州自然歩道が南の旧小石原村から馬見山・屏山・古処山を経て秋月へ抜けている。山腹は杉林だが、稜線は天然林の木々で登山道は気持ち良く歩くことができる。頂上から南側の眺望が優れる。

- 1、期 日 平成26年3月16日（日曜日）
- 2、山 域 馬見山(977.8m) 2万5千分の1
地形図「小石原」
- 3、集 合 熊本市崇城大学市民ホール前、
熊本市北区役所駐車場
- 4、バス経路 市民ホール前 → 熊本市北区役所
(旧植木町役場) → 植木IC → 甘木IC →
江川ダム → 鮎返り林道入口(バス下車)(所要
2時間半)
- 5、登山経路 鮎返り → (車道歩き) 登山口 →
宇土浦越 → 馬見山頂上 (昼食) → 林道横
断 → 嘉麻峠登山口(バス乗車) 小石原道の駅
(トイレ) (歩行時間 約5時間30分)
- 6、携帯品 雨具上下、折傘、手袋、防寒着、弁
当、水筒、行動食、タオル、ビニール袋、ス
トック又は杖、着替え
- 8 参加者名 工藤文昭・松本莞爾・廣永峻一・
加藤稜子・石井文雄・加藤明・安場俊郎・
中林暉幸・池田清志・千々岩泰子・坂西直明・
松島義幸・山本直・植木隆俊・植木啓子・
脇元公明・金山春男・江島博之・井上恵美子・
伴栄子・富樫康子・平方英子・巢山のり子・
小坪美保・牧ユリ・悦裕美乃・平野博之・
石山悦子・正木勝



馬見山山頂にて

日本山岳会だより

「山の日」制定プロジェクトから「山の日」祝日化の最新情報をお届けします。

山の日法案が3月28日午後、衆議院事務総長に提出されました。法案の内容は先にお届けした冊子『いま「山の日」制定』に記載してあるとおりで、8月11日を国民祝日「山の日」とする、施行は平成28年から、などとなっています。

また提出当日の次第は添付資料Aのとおりです。衆議院の全会派の共同提案で、各会派の合計10名が提出者に、また92名が賛成者に名前を連ねています。選出された選挙区はほぼ全国にまたがっています。審議日程などはまだ決まっていますが、議連執行部は、余程のことがない限り今国会で成立するとの確信をもっているようです。

また新聞報道はほとんどが「超党派提案であり、今国会で成立の公算が大」と伝えています。

法案の成否、成立するとしてその時期はなど、国会の審議を待つしかありませんがわたしたち日本山岳会にとっては、今後とも「山の日」活動にどう取り組むかが何よりも重要です。祝日制定で終わる運動でないことは、各位ご承知のとおりです。公益社団法人である日本山岳会は

- ・「山の日」にどのような意味を持たせるのか
- ・どのように「山と向き合い」「山の恵みに感謝」するのか
- ・登山の愛好者として何ができるか、なすべきか
- ・いかにして他の山岳団体や行政、自治体と連携を深めるかなどなど、さまざまな課題への取り組みが求められていると思います。

運動の輪をさらに広げ、祝日「山の日」が施行されるまでの2年間をいかに有効に活用するか、将来にわたってJACが目指した理念を実現するか、ご一緒に考えたいと思います。

これは、支部活性化プロジェクトだけでなく、JACの若返り、会員増を目指す諸々の活動に、そのまま結びつく課題だと考えます。

今後とも「山の日」制定プロジェクトの活動にご理解とご協力をお願いいたします。

山岳共済「山岳遭難・捜索保険」のご案内

熊本支部でも支部活動の活性化、地域社会への貢献等を目標に新しい事業に取り組んでいます。一般登山愛好者を対象にした「登山教室」も、毎年参加者は増加の一途を辿っていますし、会員・会友の皆様の事業への参加も著しく大変喜ばしいことと思います。

さて、山岳遭難の8割以上が中高年者ということになっています。事故現場も、険しい山岳地域に限らず、身近な里山での遭難も増えております。事故の原因も道迷い、転倒、滑落などが多いですが、人間、年を重ねると、体力、判断力、持久力の低下があるのに、そのことに全く自己認識がないところに問題があります。自然界は素晴らしく、登山は楽しいですが、同時にリスクの大きなスポーツでもあります。日頃からこのことへの備えはしておくべきだと思います。

現在、支部の事業で山に登るときは、参加者全員に保険を掛けて実施しています。

今回、お勧めする保険に加入いただきますと、3140円の保険料で会の行事から、個人の山行まで、山岳遭難の費用が保障されることとなります。又、この保険は、登山中のみならず、日常生活中に起きた事故でも、掛け金に見合った補償がなされます。

また、山岳保険に加入されますと登山教室等での参加費は約300円程の値引きをした形で徴収することになり、一般の参加者との差別化が図られます。

支部にとりましては、すべてに事業の企画、運営等で責任が発生します。登山者も、今や山岳保険の加入は当たり前となっております。

支部会員の皆様には、この件につきご理解とご協力をいただき、山岳保険へのご加入をお願いいたします。

山の標高が変わります 国土地理院、羅臼岳など87山

国土地理院は26日、日本の主な山岳1003のうち、48の山について標高を1メートル高く、39の山を1メートル低く改定すると発表した。人工衛星を使った精密な測量データなどを反映した結果、標高の数値を見直すことになったという。国土地理院は2002年以降、主要な山の標高の見直し作業を随時進めてきたが、一度に80を超す山について改定を行うのは異例という。改定は4月1日付。「山岳標高一覧」

改定で1m標高が高くなった山			改定で標高が1m低くなった山		
山名	新標高	所在地	山名	新標高	所在地
羅臼岳	1661	北海道	ピパイロ岳	1916	北海道
オプタテシケ山	2013	北海道	幌尻岳	2052	北海道
女峰山	2376	栃木県	札内岳	1895	北海道
太郎山	2368	栃木県	カムイエクウチカウシ山	1979	北海道
皇海山	2144	栃木・群馬県	戸来岳	1159	青森県
赤久縄山	1523	群馬県	二ツ森	1086	青森・秋田県
御荷鉾山	1287	群馬県	三巢子岳	1181	岩手県
箆ノ登山	2228	群馬・長野県	和賀岳	1439	岩手・秋田県
毛勝山	2415	富山県	真屋岳(まひるだけ)	1059	岩手・秋田県
越中沢岳	2592	富山県	栗駒山(くりこまやま)	1626	岩手・宮城県
南沢岳(みなみさわだけ)	2626	富山・長野県	大東岳(だいとうだけ)	1365	宮城県
観音ヶ岳	2841	山梨県	太平山(たいへいざん)	1170	秋田県
間ノ岳(あいのみだけ)	3190	山梨・静岡県	飯森山(いもりさん)	1595	山形・福島県
鉢伏山(はちぶせやま)	1929	長野県	安達太良山	1709	福島県
鉢盛山(はちもりやま)	2447	長野県	小野岳(おのだけ)	1383	福島県
蓼科山(たてしなやま)	2531	長野県	高陽山(こうようざん)	1126	福島・新潟県
峰の松目(みねのみまつめ)	2568	長野県	富山(とみさん)	349	千葉県
唐沢岳(からさわだけ)	2633	長野県	大山(おおやま)	193	千葉県
三沢岳(さんのさわだけ)	2847	長野県	大室山(おおむろやま)	1587	神奈川・山梨県
越百山(こすもやま)	2614	長野県	箱根山・金時山	212	神奈川・静岡県
守屋山(もりやさん)	1651	長野県	黒姫山(くろひめやま)	1221	新潟県
黒檜山(くろべいやま)	2541	長野県	明星山	1188	新潟県
小日影山(こひかげやま)	2506	長野県	犬ヶ岳(いぬがだけ)	1592	新潟・富山県
鬼面山(きめんざん)	1890	長野県	野坂岳(のさかだけ)	913	福井県
熊伏山(くまぶしやま)	1654	長野県	雲谷山(くもだにやま)	786	福井県
大沢岳(おおさわだけ)	2820	長野・静岡県	御正体山	1681	山梨県
光岳(てかりだけ)	2592	長野・静岡県	高ドッキョウ	1133	山梨・静岡県
赤石岳(あかいしだけ)	3121	長野・静岡県	川上岳(かおれだけ)	1625	岐阜県
奥三界岳	1811	長野・岐阜県	大江山(千丈ヶ嶽)	832	京都府
茶臼山(ちやうすやま)	1416	長野・愛知県	皆子山(みなこやま)	971	京都府滋賀県
笠ヶ岳(かさがたけ)	2898	岐阜県	青野山(あおのやま)	907	島根県
天城山(あまぎさん)	1406	静岡県	八塔寺山	538	岡山県
荒川岳(あらかわだけ)	3084	静岡県	金山(かなやま)	499	岡山県
大無間山(だいむげんざん)	2330	静岡県	後山(うしろやま)	1344	岡山・兵庫県
不動岳(ふどうがたけ)	2172	静岡県	皇座山(おおざさん)	526	山口県
黒法師岳(くろぼうしがたけ)	2068	静岡県	嶮岨山(けんそざん)	816	香川県
京丸山(きょうまるやま)	1470	静岡県	鷲ヶ頭山	436	愛媛県
鷹ノ巣山(たかのすやま)	1153	愛知県	白髪山(しらがやま)	1469	高知県
霊山(れいさん)	766	三重県	英彦山(ひこさん)	1199	福岡・大分県
毛無山(けなしがせん)	1219	鳥取・岡山県			
三嶺(みうね)	1894	徳島・高知県			
笹ヶ峰(ささがみね)	1860	愛媛・高知県			
瓶ヶ森(かめがもり)	1897	愛媛・高知県			
筒上山(つつじょうざん)	1860	愛媛・高知県			
天狗森(てんぐもり)	1296	高知県			
蟠蛇森(ばんだがもり)	770	高知県			
上福根山(かみふくねやま)	1646	熊本県			
霧島山(高千穂峰)	1574	宮崎県			



1m 高くなる上福根山 (1645m⇒1646m)

お知らせ

公益社団法人日本山岳会が運営しているサイトです



「親子で楽しむ山登り」

パンフ参照

山登りをしている家族やこれから始めようとする家族のためのウェブサイトが完成しました。こどもは、自然の中で思い切り遊ぶことが大好きです。見たことのない虫や花に出会ったり、身体を動かした後に山ごはんを食べる。山登りには驚きや発見、むそして家族の絆を深める楽しみがいっぱい詰まっています。

このサイトは山登りをしている家族やこれから山登りを始めようとする家族、または子供たちを山に引率する方々に利用して頂くウェブサイトです。

このウェブサイトの方針

- ① 親や指導者が、子供を山に連れていくための、知識や技術を伝えます。
- ② 子どもが山に登るための、山の知識や技術を、楽しく興味深く伝えます。
- ③ 山を中心に、日本列島の自然や郷土の価値、歴史や文化の豊かさを伝えます。
- ④ 安全な山登りをするためのノウハウを伝えます。

熊本県での親子で楽しむ山域は「鞍岳・ツムシ山」を紹介しています

アップする方法 (パソコンで検索)

- ① インターネット⇒日本山岳会HP⇒日本山岳会の活動⇒プロジェクト⇒家族登山普及ワーキンググループ⇒ウェブサイト「親子で楽しむ山登り」を公開をクリックします。
- ② 直接入力 [http:// www.jac.or.jp/oyako/](http://www.jac.or.jp/oyako/)

平成26年度山行計画 (案)

- 4月26日 第15回森林保全巡視登山「目丸山」
- 4月26日 月例登山「山野草を見る会」「目丸山」
- 6月中旬 第12回登山教室 (一般募集)
- 6月下旬 第1回森づくり事業 (年4回開催)
- 7月中旬 第3回勤労青少年登山教室 講座
- 7月下旬 第3回勤労青少年登山教室実技
- 8月初旬 第11回登山研修会 (沢登り編実技)
- 8月24日 第3回SOアスリート支援登山
- 8月30日 夏期例会 (ビールパーティー)
- 9月初旬 第13回登山教室「 」
- 9月27日～29日 第7回脊梁山脈トレイルラン
- 10月中旬 第16回森林保全巡視登山
- 11月1日～2日 宮崎ウエストン祭
- 12月14日 海外登山報告会
- 12月6日～21日 山の写真展
- 1月17日 新年晩餐会
- 2月1日 第12回登山研修会
- 3月1日 干支の山登山

会員・会友の皆さんへお願い

- ◎ 支部行事のほかに、個人山行等、実施される場合は出来る限り計画書及び報告書を事務局までご連絡いただければ幸いです。(支部報等に掲載します) また、山行の際の山岳保険等のご加入をお勧めします。(会主催の山行時の参加費が保険料を差し引きます)
※ 保険加入を希望されるかたは、同封の山岳保険のしおりをご利用ください
- ◎ 尚、山岳会主催の行事に参加される場合は3ヶ月に1回程度、参加の有無をアンケート方式でプリントを配布しますので、希望の事業に○印をつけて事務局までお送りください。
(おおよそ予定で結構です)
参加希望の方には実施日の10日前までに葉書等で計画書をお送りします (キャンセルはその時でも可)

熊本の里山紹介①

目丸山 (めまるやま) 1341. 3m

カタクリとヤマシャクヤクの咲く山

25000 図=畝野

目丸とは面白い名前だが何処から見ても「ナマコ」のような形の山だ。美里町【みさとまち】の国道218号線から入り緑川に架かる高さ86mの内大臣【ないだいじん】橋を渡ると右手に大きな公衆便所があり、駐車場広場がこれから山に入る者にとって準備の広場となる。この先200mに変則十字路があり直進すると椎矢峠へのルート(2009年現在林道陥没のため全面通行止)県道153号線を右へ上があれば左側の高台に白糸第三小学校、この先を左へ(目丸山の道標あり)登ると急坂の道路に入る。狭い農道を10分程で青石集落到到着、いよいよ青石【あおし】林道に入り約3kmで尾根上の右手に目丸登山口(920m)の道標があり、地元車の迷惑にならないように車を駐車する(10台駐車可)。登山口から平坦な杉の植林地を歩き、自然林と植林を交互に歩く。ブナ、トガ、ヒメシャラ、アカカシなどの自然林が続く林ではキノコを良く見かけた。登山口から杉と檜の植林地を30分ほど歩くと1162mのピークにブナやトガの大木が現われる。間もなく坂を登った辺りから気持ちの良いブナ、ツガ、ヒメシャラの自然林の中を歩く、次の急坂を登ると伐採跡のワイヤが棄てられたままの尾根を一段上がると分岐点、右に目丸山、左に馬子岳【まごたけ】への尾根が伸びる。目丸山に向けてススタケの切り分けを抜けるとブナ、カエデ、シオジ、ヒメシャラなどの自然林に覆われた平坦な山頂に着く。この平坦な自然林の中にビッシリとあったカタクリの花も今は極端に少なくなり、まばらにしか見ることが出来ない。20年前に比べて極端に少なくなった。カタクリは下の西内谷には今も多くの花を付けている。谷は水分も多く花の条件としては敵地なのかも知れない。脊梁の山にはカタクリの群落は少ないがあちこちに花を見ることが出来る。

青石部落周辺の田や畑には猪、鹿除けのコードが張り巡らせてあり、余程鹿の被害が多くなっているのだろう。鹿は山のワサビも食べてしまうので山のワサビが全滅するのではないかと心配されている。今はカタクリを目的とした登山客も少なくなり、カタクリが増加することを密かに楽しみにしている。

コースタイム

内大臣大橋⇒30分⇒登山口 [70] 馬子岳との分岐 [20] 目丸山頂 [80] 下り1時間10分

平成25年度会員・会友の動静

会員入会

松本 博美 (15432) 新入会員
松本 大智 (15445) 新入会員
山本 直 (15435) 会友から会員へ

会員退会

池崎 浩一 (10432) 平成25年9月
木曾 萬喜治 (14306) 平成25年10月
宮崎 守 (10503) 平成25年12月
川端 浩文 (..9328) 平成26年3月
松岡 栄治 (14560) 平成26年3月
松岡 啓子 (14561) 平成26年3月
佐藤 光利 (..5117) 平成26年3月
加藤百合子 (14559) 平成26年3月

会友入会

芥川 文郎 内布 陽子
原田 久子 桑原 リカ

会友退会

千原 幸子 村上 照美 井藤 憲幸
石井 久夫 島添 健輔 島添佳代子

平成26年3月31日現在の会員・会友数

会員 37名
会友 32名 合計 69名

編集後記

平成25年度も山へのロマンを掻き立てられながら、月1回の山登りを実践してきた。支部の活動が主であるが、会員会友の皆さんの協力を得ながら、毎回楽しい登山が出来た。みんな体力との戦いでもあった。しかしながら平均67.8歳の熊本支部の皆さんは元気がいい。そんな中、体力の限界を感じながら会を辞めていかれる先輩方が増えてきた。弱小の熊本支部の会員獲得と先輩方の居場所を作り出すことが肝要となる。他の支部に見られるような、昔話が出来る沙龙的な場所がほしくなってくる。今回も投稿の数が少なくなり、先輩方へ昔のお話をお聞きしたかった。今後はそんな特集も企画し、それをサロンで聞かれれば幸いだし、楽しみも増えるだろ